

熊本県阿蘇地域

世界農業遺産

詳しく見てみよう!

「阿蘇の草原の維持と持続的農業」

【特産品】



阿蘇のあか牛



阿蘇

コシヒカリ



阿蘇高菜



大分県国東半島宇佐地域

世界農業遺産

詳しく見てみよう!

「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」



降水量が少なく、水の確保が困難だったこの地域では、小さいため池を連結して利用してきた。周辺にはため池の水をかん養するクヌギ林が存在し、このクヌギを切って利用する原木しいたけの栽培が盛ん。クヌギを切ることで森林の新陳代謝が促され、里山の循環が保たれている。

【特産品】 畳表に使われる植物「七島蘭」の生産は全国唯一。

生産量日本一
「乾しいたけ」

米



シチトウイ加工品



宮崎県田野・清武地域

日本農業遺産

詳しく見てみよう!

「宮崎の太陽と風が育む『干し野菜』と露地畑作の高度利用システム」



宮崎県日南市

日本農業遺産

詳しく見てみよう!

「造船材を産出した飫肥林業と結びつく『日南かつお一本釣り漁業』」

日南かつお一本釣り漁業は、漁獲効率よりもかつお資源を守ることを優先した伝統漁業で、釣り方や道具作製などの技術がおよそ300年前から受け継がれている。造船材に特化した杉の人工造林、飫肥杉林から流れ出た栄養が育む豊かな漁場での伝統漁、漁村内での飫肥杉利用と、食文化や風習までかつお一本釣り漁業を核とした循環が形成されている。

【特産品】



かつお醤油節



宮崎県高千穂郷・椎葉山地域

「高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム」

世界農業遺産

詳しく見てみよう!



森林に囲まれ平地が少ない環境で、人々は針葉樹による木材、広葉樹を活用したしいたけ、和牛、茶の生産、棚田での稲作や焼畑を組み合わせることで生計を立ててきた。標高の高い傾斜地で農業用水を確保するために地域住民が一体となって500kmに及ぶ山腹用水路を建設し、保全してきた。

【特産品】



高千穂牛



釜炒り茶



しいたけ



そば



QRコードから
農業遺産のくわしい
情報が見られるよ!

2章 中国・四国地方

(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)

1 中国・四国地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

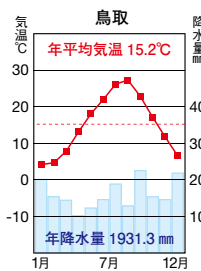
中国・四国地方は、中国山地と四国山地を境に大きく3つの地域に分けられ、気候も異なります。

山陰 P.12

日本海に面し、北西からの季節風の影響で冬に雨や雪の日が多く、特に山沿いを中心にたくさん雪が降ります。

Q1 山陰地方の鳥取県でつくられる有名な果物は？

①ぶどう ②なし ③みかん

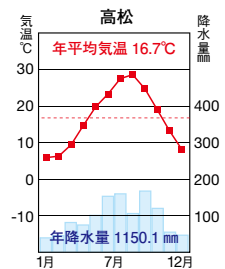


瀬戸内 P.14

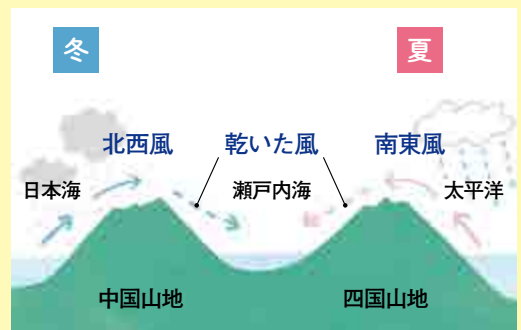
年間を通して晴天の日が多く降水量が少ないのが特徴です。そこで古くから農業用のため池や用水路が整備されました。一方、周囲を陸地に囲まれて波が穏やかなため、魚介類の養殖が盛んです。

Q2 瀬戸内海の風土に合わせて養殖されているのは？

①広島のかき ②愛媛のふぐ ③香川のしじみ



豆知識 中国・四国の風



湿った季節風は山地にぶつかり雪や雨を降らせるため、瀬戸内には乾いた風が吹き降りる。

降水量の違いに注目して各地を比較してみよう！気候の違いがわかるよ

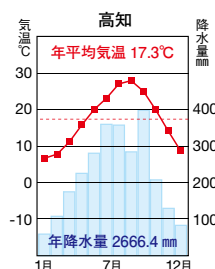


南四国

太平洋に面し、黒潮の影響で1年を通して温暖。夏は南東季節風の影響で降水量が多いのが特徴です。高知平野ではこの気候を生かした促成栽培が盛んです。

Q3 この地域の農産物でないものはどれでしょう？

①なす ②ピーマン ③キャベツ ④きゅうり



豆知識 促成栽培

ビニールハウスや温室を利用して、ふつうより早い時期に収穫・出荷し、商品価値を高める(高く売れる)ための栽培方法。



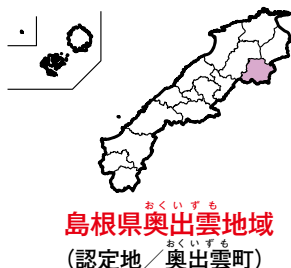
2 山陰の農業例

島根県奥出雲地域

「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」

日本農業遺産

中国山地の山間にある奥出雲地域は、日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の原料である砂鉄を採取するために山を切り崩し、採掘した跡地を棚田に再生してきました。採掘のために導いた水路やため池を再利用して農地（水田）を開発し、現在、和牛を飼養した耕畜連携や森林資源を利用した資源循環型農業が受け継がれています。



◆地域の地形と気候

奥出雲地域は島根県の南東部に位置し、約1000mの山々を後背として標高300m～500m前後に水田が広がっています。冬季は1mを超える積雪があり、春までの間、森林にはたっぷり水が蓄えられます。

◆たたら製鉄に由来する循環型農業の歴史

この地域はおよそ1300年前から「たたら製鉄」が始まり、江戸時代には鉄の一大産地でした。「たたら製鉄」は原料の砂鉄と木炭を炉の中で燃焼させることによって鉄を生産する製鉄法です。原料の砂鉄を得るため山を切り崩し、水の流れを利用した方法「鉄穴流し」で砂鉄を採取しました。明治以降、近代西洋式製鉄法の進展により「たたら製鉄」は衰退しましたが、採掘に使っていた水路やため池を再利用して鉱山の跡地を棚田に再生しました。はじめはやせた土地でそばをつくり、労働力（運搬・農耕用）だった和牛のふん尿を堆肥にして土をつくり、やがて米をつくれるようになりました。たたら製鉄の営みによって鉱山跡地に農地がつくられ、現在も、牛ふん堆肥を使った米づくり、森林を循環利用したきのこ類などの生産といった農業の知恵と技術が受け継がれています。



砂鉄採取の様子



唯一継承される伝統的な「たたら製鉄」

地域の資源を
ムダなく
使っているんだね



農業かんがい用として再利用された水路網



砂鉄採掘跡地につくられた棚田